

領域	実習科目	単位	時間数	対象学年	単位認定者
専門分野 I	日常生活援助技術実習	2	90	1年次	東垂水朋子
実習概要					
<p>各看護学実習（成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習、統合実習）の土台となる科目である。</p> <p>看護を展開する上で基盤となる人間の理解、対象に応じたコミュニケーションと日常生活援助、看護者にふさわしい態度を学ぶ。「療養環境の理解」では、対象が生活する療養環境及び対象の思いを理解し、看護師の役割について学ぶ。「日常生活の援助」では、対象の基本的ニーズを把握し、対象に応じた援助の必要性を考え、対象に応じた援助計画を立案することを学ぶ。</p>					
科目目標					
<p>対象を取り巻く療養環境を理解できる。看護の対象として人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。基礎的な看護技術を活用し、対象に応じた日常生活の援助ができる。</p>					

実習計画

区分	実習場所・時間	内容及び方法
療養環境の理解	NHO 熊本医療センター 5西 5南 6東 6西 6南 6北 7東 7西 7北 病棟のうち1か所 7.5時間	<p>看護師が行う援助やコミュニケーションの実際を見学し、療養環境における物理的環境、生物的環境、社会的環境の実際を学ぶ。</p> <p>また、対象が生活する外部環境や人的環境を理解し、入院を余儀なくされた対象の思いや看護師の役割を考える。既習学習と照らし合わせながら、実習を通して対象にとってよりよい療養環境とは何かについて考える。</p>
日常生活の援助	NHO 熊本医療センター 5西 5南 6東 6西 6南 6北 7東 7西 7北 病棟のうち1か所 82.5時間	<p>病棟において一人の対象を受持ち、何らかの健康障害により日常生活に支障をきたしている対象へ、看護師と共に対象の援助を行う。その際、対象に応じたコミュニケーション技術・観察技術を用いて基本的ニーズを把握し、ひとりの「人間」に焦点を当て、「人間とは」「健康とは」「その人らしさとは」について考える。</p> <p>そして、対象の基本的ニーズを理解し、対象に応じた援助の必要性を考え、対象に応じた援助計画を立案することを学ぶ。また、日常生活援助の実施は、学内演習で習得した基礎看護技術を応用し、指導者とともに行い、実施した援助の振り返りや援助計画の修正につなげていくことを理解する。</p>